

歴史から学ぶ私たちの使命

吉野東中学校 三年 田上 華凜

十五年前に整った産婦人科病院で誕生し、特に大きな病気もせず成長を重ね、今こうして何不自由なく生活し、衣服をまとい勉学に励むことが出来る私がいる。私たちに与えられている日頃の生活は、ごく日常で遮られることのない普遍的なローテーションである。だが、こうしたあたりまえの毎日の生活が崩れてしまい、恐怖におののきながら生きていかなければならないことを想像できるだろうか。

社会科の授業で、現代の日本と世界について学んだ。現代の日本の発展と国際社会における地位は、私たちの知らない戦争という日本の辛い過去や先人の苦悩と努力があったからこそであるということを知ることが出来た。戦争という歴史を学び、その光景は非現実的でまるで映画のようではあるが、とても映画では表現することのできないほど残酷なものだった。そして戦争で命を失うことも恐怖だが、その後の深刻な食料不足により人々を長期間、苦しめ続けることになる。そして飢餓や病気により命を失う、家族とバラバラになつてしまふ、幼い頃から働かなければならないなど、私たちは戦争の悲惨さを学び知り、そして伝えていかなければならないと思う。

鹿児島市平和都市宣言と書かれたクリアファイルを小学生の時に受け取った。当時はあまり気にしなかったが、校外学習で知覧特攻平和会館を訪れたり、中学生になつてから、原爆資料館の訪問など、戦争と平和について学び触れる機会も多くなつた。これまで戦争や平和について触れる機会のなかつた私にとっては想像したこともない悲惨な現場や、変わり果てて焼失してしまった街の風景、人々の悲惨な叫びが心に響いてくるように感じた。鹿児島市平和都市宣言について改めて調べてみると、昭和二十年に鹿児島市もすさまじい空襲を受け、鹿児島駅を中心に市街地の九十三パーセントを焼失

した歴史があつた事が分かつた。また、私達が生活している吉野上空でも爆撃機が飛び回つていたことも分かつた。今では住宅が立ち並び商業施設や飲食店など急速な開発が進んでいるこの町にもそのような歴史があつた事は、とても信じられなくて驚いてしまった。また昭和二十年というと、とても昔の事のように感じてしまうが、私の祖父母が生まれた頃であり、感じていたほど昔の事ではなく、戦争や悲惨な生活を経験してきたという事にも驚いてしまった。

終戦してから月日が経ち、各国で平和のための協定や平和条約が世界平和を願つて制定されている。だが、世界各地で小さな紛争や争い事は絶えず繰り返されており、私たちはその報道を目にすることは少なくない。しかし、それが遠く離れた国の紛争であつても私たちは無関心に目を背けてはいけないと思う。なぜなら、国際社会を迎えている今、私たち日本人が世界で活躍することはこれまで以上に多くなると思うからだ。また、私たちが生活している地域においても、外国人労働者の雇用などにより国際化が進んでいる。遠くの小さな紛争が、人種や信仰などにより大きく発展し、私たちの生活に大きく影響することも考え始めなければならぬと思う。

戦争という武力行使ほど無知なものはない。私たちを取り巻く生活環境の中でも、いじめや暴力、差別、ハラスメントなどおそろしくそれと同じなのだろうと思う。一人一人が平和個人宣言を提唱して心豊かに、私たちの日常生活を、日本を、世界をより良くしていく事こそが、日本の発展と国際社会における地位の確立に尽くされた先人への恩返しと、これから広い世界の中で生き抜いていく私たちに残された課題だと思う。